

日独シンポジウム

日独における将来の刑事手続のための情報保管の許容性

Die Zulässigkeit strafprozessualer Datenspeicherung zugunsten zukünftiger Strafverfahren in Deutschland und Japan

【公開シンポジウム】——どなたもご参加いただけます

日時：2019年10月12日/13時～18時

場所：熊本大学文法棟1階A2教室/熊本市中心区黒髪2丁目40番1号

パネラー

- ・カーステン・ゲーデ (Karsten GAEDE) /ブツェリウス・ロースクール (ハンブルク)
- ・イエンス・プシュケ (Jens PUSCHKE) /マールブルク大学
- ・内藤大海/熊本大学
- ・コメント：野澤充/九州大学
- ・通訳 (質疑のみ)：土井和重/北九州大学 (ドイツ語での報告内容は邦訳を配布します)

プログラム

企画趣旨、挨拶

内藤大海/熊本大学

カーステン・ゲーデ/ブツェリウス・ロースクール

将来の刑事手続のためのDNA型情報の取得および保管

- ・日本における問題状況について/内藤大海
- ・ドイツにおける問題状況について/カーステン・ゲーデ
- ・質疑

通信関連データの予備的保全 (Vorratsdatenspeicherung)

- ・日本における問題状況/内藤大海
- ・ドイツにおける問題状況/イエンス・プシュケ
- ・質疑

コメント

- ・コメント——実体法上の問題に触れつつ/野澤充
- ・質疑

挨拶

連絡先：hnaito@kumamoto-u.ac.jp (内藤大海)

参加をご希望の方は内藤宛にご連絡いただければ幸いです。